「おんぱく」長久手

写真は今年 7 月 19 日から 8 月 3 日まで開かれた音のテーマパーク「踊れ、オンガク!のチラシである。主催は長久手市であり、名古屋芸術大学音楽学部アートマネジメントコースが特別協力している。

7 月 19 日に「キックオフコンサート&山崎亮と語り場カフェ」に参加した。どこからともなく、美しい音色が聞こえてきて、ざわつく会場も静かになった。「おんぱく」にふさわしい入り方であった。会場は空が見え、橋が懸っている文化の家の建物の特徴を活かして、雰囲気を盛り上げていた。

長久手出身の『コミュニティデザインの時代』の著者・山崎亮さんの「場の雰囲気」をつかんだ話も参加者を引きつけていた。とくに「外に出ること」「まちが劇場である」など、アウトリーチと「おんぱく」の関係など多くの示唆が得られた。今回の企画は「おんぱく」のキックオフにふさわしく、単なる「ハコモノ」にとどまらない文化の家の魅力を感じさせた。「ともに創る」をコンセプトにした文化の家にあらためて関心をもった。

文化の家と「友愛橋」で結ばれた中央図書館も、長久手市の文化施設の中核に位置する。明るく開放的な図書館であり、多様な人たちが多く利用している。この AV ルームで 31 日に行われた「まちなかコンサート」にも顔を出した。軽快な演奏が会場一杯に響き渡り、かぶりつきで聴く親子が多かった。最後に曲に合わせて踊り出す子もいて、まさに「踊れ、オンガク!」であった。じつは 19 日のときの感想に「図書館との連携を」と書いたこともあり、その様子を確かめたかった。この企画をきっかけとして、二つの施設の連携が深まることを期待したい。

2012 年 1 月に「町」から「市」となった長久手市は、市内に住む就業者の 38%が隣接する名古屋市に通勤する典型的なベットタウン。開発が急ピッチで進んだこの 5 年間の人口増加率は 10%を超える。東海 3 県「住みよさランキング 2014」(東洋経済)で、長久手市は最も住みよい都市となった。とくに「快適度」では東海のみならず、全国でもトップであった。

長久手は都市化が急速に進む一方、今も多くの自然が残されている。豊かな自然だけでなく、文化の家を中心にした文化芸術活動も快適度を高めている。文化の家と図書館の「おんぱく」に参加して、長久手のアメニティの一端を実感できた。また「リニモ」に乗って訪ねてみたい。

今日は「文化の日」であり、たまには文化の香りのあるレポートを書いてみた。

(2014 年 11 月 3 日)